

再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課： 都市局街路交通施設課

担当課長名： 高橋 忍

事業名	地域高規格道路 都市計画道路	おおいたちゅうおうかんせん 大分中央幹線道路 しょうほるさの 庄の原佐野線（元町・下郡工区）	事業区分	街路	事業主体	大分県
起終点	自：大分県大分市六坊南町 至：大分県大分市下郡			延長	1.2 km	
事業概要						
都市計画道路「庄の原佐野線」は、東九州自動車道大分ICから都市計画道路「下郡中判田線」までの間、約6kmが「大分中央幹線道路」として地域高規格道路の指定を受けている。本事業は、このうち整備区間として指定された国道10号（六坊南町）から都市計画道路「萩原鬼崎線」（下郡）までの間、約1.2kmにおいて街路整備を行うものである。						
H20年度事業化		S36年度都市計画決定 （H22年度変更）		H21年度用地買収着手		H24年度工事着手
全体事業費	130億円	事業進捗率	約9%		供用済延長	— km
計画交通量	44,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.5 (残事業) 3.2	総費用 (残事業) / (事業全体) 88 / 115億円 事業費：88 / 114億円 維持管理費：0.40 / 0.40億円	総便益 (残事業) / (事業全体) 286 / 286億円 走行時間短縮便益：240 / 240億円 走行費用減少便益：46 / 46億円 交通事故減少便益：0.02 / 0.02億円	基準年 平成24年		
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施						
交通量変動：B/C=3.6（交通量+10%）2.9（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.9（事業費+10%）3.6（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=3.1（事業期間+20%）3.2（事業期間-20%）						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 東九州自動車道等高規格幹線道路と一体的に機能し、地域間連携と都市内構造の強化を目的とする大分市内の東西骨格軸道路として、産業競争力の強化に寄与（臨海工業地帯（大分港）、下郡工業団地、大分IC等アクセス向上） 大分市内の主要渋滞ポイント解消や大分川架橋部における慢性的な交通渋滞を緩和・緊急輸送道路の形成等 						
関係する地方公共団体等の意見						
「大分市」をはじめ、「庄の原佐野線滝尾・明野地区促進期成会」等より地元の強い要望を受けている。						
事業評価監視委員会の意見						
当該事業の継続実施は妥当であり、継続を了承。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> 地域高規格道路指定区間約6kmのうち、大道～上野工区（約2.2km）がH20.9供用済。・H22.12米良有料道路が無料化。 東九州自動車道（佐伯～蒲江間）のH28年度供用がH24.5公表され、これにより東九州道は北九州から宮崎市まで繋がる。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
<ul style="list-style-type: none"> 道路予定地の用地取得に努めており、平成23年度末の用地取得率は、約29%である。 残事業については、用地取得が約17,000m²、道路整備が約1,200m（大分川橋梁部約350m含む）である。 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
厳しい財政状況を背景に事業進捗率は伸びていないが、土地所有者等の理解も得られている状況であり、本事業の早期完了を目指す。						
施設の構造や工法の変更等						
発生材、再生材使用等や工事着手の段階で新技術等の活用を図り、公共事業のコスト縮減に努める。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の事業効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議結果を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。